

日米におけるスノーボードの発展過程に関する歴史比較研究

The Historical Progress of Snowboard Compared in United State with in Japan.

1J02C054-3 大嶋麻奈加

指導教員 主査 木村和彦先生 副査 作野誠一先生

【緒言】

「エクストリームスポーツ (extreme sports)」とは、速さ、高さ、危険や華麗さなど「過激な (extreme)」要素を持った、離れ業を売りとするスポーツの総称である。自身の身体能力や度胸の限界を求める若者たちに支持され、ファッション、音楽といった若者文化に大きな影響を与えていると言われている。そういった意味でも、マーケティング (市場での展開) も重要であるとも言われている。

本研究は、数あるエクストリームスポーツの中でも、アメリカで生まれ発展し、1990年代以降、日本の若者に人気をもたらした「スノーボード (Snowboard)」に特化し、考察及び分析を行う。

【研究目的】

1960年に誕生したスノーボードは、野球やサッカー、ラグビーといった伝統的スポーツとは異なり、スポーツを構成するすべての要素で急成長を遂げてきた。

本研究は、限界を求めるアメリカの若者に似た、日本の若者のスポーツへのニーズの変化に注目し、日本のスノーボードの将来性を予測することを目的とする。

【研究方法】

文献・各種資料の検証を通して考察を行う。

そこで、菅原禮が提言した、スポーツの構成要素を参考にし、①誕生、②メディア、③用品・用具産業、④組織、⑤大会、⑥スター、⑦参加者の7項目に分けて、忠実に歴史を辿る。

最終的に、その各々の項目を日本でのスノーボードの発展過程と比較し、日本のスノーボードの現状と課題を明らかにする。

【研究の概要】

第1章では、アメリカでスノーボードが誕生し、若者文化の一つとして捉えられるまでの過程を検証していく。まずは、先駆者たちによるスノー

ボードの開発、原型となる“Snurfer”の誕生、メディアへの露出といったスノーボードが確立するまでの初期過程に重点が置かれていた、“fun (楽しむ)”側面に注目する。次に、その後のオリンピックにおける公式種目化により勃発した、国際スキー連盟 (FIS) と国際スノーボード連盟 (ISF) の紛争 やそれに伴う大会により 登場する “Competitive (競争的な)” 側面について言及する。最後に、他の構成要素と共に、これらの二極化した特性について考察を行う。

第2章では、1980年代にアメリカから普及され、爆発的な成長を見せたスノーボードの、日本における発展過程を検証する。第1章でのアメリカと同様に、スポーツの構成要素を一つ一つなぞり、現在の日本でのスノーボードブームの起源を明らかにする。

第3章では、スノーボードが持つ “fun (楽しむ)” 側面の裏側にある、“魂、創造性、個性” といった特性について起きた問題を記述していく。そこで発覚する他のスポーツとは異なる文化の一部という属性について言及する。

第4章では、第3章までに明らかになった、日米の発展過程の相違点及びスノーボードが持つ特性を元に、日本のスノーボード界の現状及び課題を見つけ出す。そして日本におけるスノーボード界の今後の展望を提言する。

【まとめ】

日本におけるスノーボードは、アメリカに引けを取らない発展をしてきた。しかし、「スタースノーボーダーの存在」及び「メディアの露出」の不足により、十分な発達をしているとは言い切れない。その解決案として、「メディアの露出」を含む、十分なマーケティング戦略を行った大会の開催を挙げる。そしてそれが、将来のスタースノーボーダー誕生のきっかけとなり、より一層のスノーボードの人気を導く鍵となるであろう。